

甲賀市のキイロヤマトンボの未来

私が甲賀市レッドリスト絶滅危惧種のキイロヤマトンボに関わり始めてからちょうど10年になります。滋賀トンボ調査グループに誘っていただき、県内のトンボを調べ始めて2年目の2013年、私はそれまで10年間ほど記録が途絶えていたこのトンボの生息を市内で確認し、それ以来毎年調べてきました。キイロヤマトンボは、より普通に見られるオニヤンマに似た模様のトンボで、オニヤンマよりやや小型のヤマトンボ科のトンボです。そしてその姿形は、私的にはオニヤンマよりずっと魅力的です。エメラルドグリーンに輝く複眼、青銅色の胴体、スマートな腹部はいつ見てもすばらしい。さらに幼虫も金色に近い色で美しいです。

生息地は主に河川の中流部で、河道に適度なカーブがあるゆるやかな流れの、砂地の川に幼虫が育ちます。また、河辺林が存在することも大切で、成虫の活動・休息の場となります。このような環境は、1990年代は県内に現在より多く存在し、本種もより多く生息していましたが、現時点では県内にわずか数カ所、甲賀市内にもほぼ1カ所となってしまいました。

私は昆虫愛好家として、自分の住む地域にこのような希少な種、しかもとても魅力的な昆虫が生息することをうれしく思いますし、同時に自然との共生主義者として、昨今の世界や日本全体での生物多様性保護の流れから考えても、倫理的にこのトンボを大切に守っていきたく感じます。そして具体的には、毎年、その年の生息状況を確認・記録し、それを県事務所にある河川砂防課様にご報告して、生息地の維持をお願いしております。幸いにも、私の意をくんでいただき、生息地の河川環境の改変事業に際しては、これまで常に事前にお知らせくださっていますし、事業実施時は現場も見に行きますが、必要以上の改変、本種の存続が危なくなる改変はされていないと感じます。そして、その結果、私が関わってからの10年間、甲賀市のキイロヤマトンボの生息状況は、元々個体数が多くはないですが、大きくは減少してはいないと確認しています。

私1人にできることはわずかですが、今後も本種を見守っていきたく思います。キイロヤマトンボが生息できる豊かな自然環境が甲賀市にずっと続き、私の子々孫々までがそれを享受できますように!! 関係者の皆様、ご理解・ご協力をよろしく願いいたします。

井野 勝行

(自然観察指導員、2級ビオトープ計画/施工管理士、

甲賀水源の自然を守る会事務局) (甲賀市在住)



写真1：生息確認のために捕獲したキイロヤマトンボの雄



写真2：キイロヤマトンボの幼虫



写真3：川面の上を飛翔するキイロヤマトンボ